

〔三宅管内の遺伝資源の収集・評価・保存〕

キキョウランなど切り葉類の高品質安定生産技術
～収穫頻度と栽植間隔がキキョウランの生育に与える影響～

坂本浩介・外山早希・平塚徹也
(島しょセ三宅)

【要 約】 収穫間隔を長くすると収量は増え、草丈の長いキキョウランが収穫できる。また、栽植3年目には栽植間隔を狭めると単位面積あたりの収量が高くなるが、葉が細くなる傾向にある。目的の品質や作業時間から収穫頻度や栽植間隔を選択する必要がある。

【目 的】

三宅島では、火山ガスに強い切り葉としてキキョウラン *Dianella ensifolia* の栽培が増えており、また、市場や生産者からは、草丈の長いものが要望されている。三宅島のキキョウランの出荷は3L(60 cm以上)を基本としているが、草丈にあった収穫頻度や栽植間隔に関するデータの蓄積はない。そこで、収穫頻度や栽植間隔がキキョウランの生育に与える影響を明らかにし、安定生産の一助とする。

【方 法】

事業所内パイプハウスに畝幅80 cm、畝長3 mの区画を設け、2011年5月30日にキキョウランを定植した。草丈60 cm以上、葉数5枚以上を収穫対象として、2014年1月から調査を開始し、2014年12月に調査を終了した。収穫頻度の試験は、収穫間隔を1ヵ月、2ヵ月、3ヵ月の3段階に分け、本数、重量、葉数、葉色について調査を行った。栽植間隔の試験は、栽植間隔を20×20 cm、30×30 cm、40×40 cmの3段階に分け(栽植株数はそれぞれ56株、30株、16株)同様に調査を行った。ハウス内のキキョウランは、IB化成S1号10 kg/10aを3ヵ月に一回施用し、灌水はpF1.6～2.2の間で管理した。

【成果の概要】

1. 収穫頻度の差が生育に及ぼす影響：収量は収穫頻度を減らすと高くなった。また草丈、調整後枚数、1本重、葉色でも同様に収穫頻度を減らすことで改善した(表1)。
2. サイズ別収穫物：1ヵ月の収穫間隔では80%以上が60～70 cmの草丈であったが、収穫頻度を減らすほど最小サイズの60～70 cmの収穫物の割合は減少した。3ヵ月間隔の収穫頻度では出荷箱に入りきれない90 cm以上に成長した株もみられた(図1、図2)。
3. 栽植間隔および生育特性：収量は栽植間隔が広がると1株あたりで増加した。また、草丈、葉色には差はなかったが、栽植間隔を狭くすると1本重が重くなり、葉が太くなった(表2、図3)。
4. 栽植間隔および収穫時期：12月に収穫すると、次に収穫できるのは栽植間隔に関わらず5、6月からであった。栽植間隔による収穫時期のずれはなく、いずれの試験区でも8月に収穫にピークを迎えた(図4)。
5. まとめ：収穫頻度を減らすと収量が多く、また草丈の長いキキョウランが収穫できるが、3ヵ月間隔で収穫すると、出荷箱のサイズを超えるまで伸長する場合があるため注意が必要である。また、栽植間隔は20×20 cmで最も単位面積あたりの収量が高くなるが、葉が細くなる傾向がみられた。

表1 収穫頻度と収量および生育特性

収穫頻度	収量		草丈 (cm)	調整後枚数 (枚)	1本重 (g)	葉色 (SPAD値)
	1株あたり(本)	m ² あたり(本)				
1ヵ月間隔	8.0	187	65.6	5.7	24.4	39.7
2ヵ月間隔	9.3	217	68.6	5.5	27.0	41.9
3ヵ月間隔	11.1	259	74.5	5.8	30.7	42.8

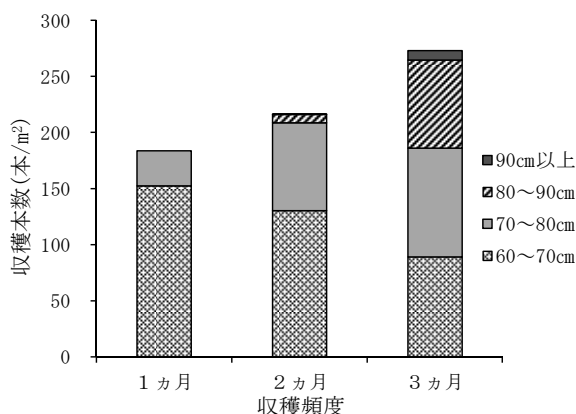


図1 収穫頻度とサイズ別収穫本数

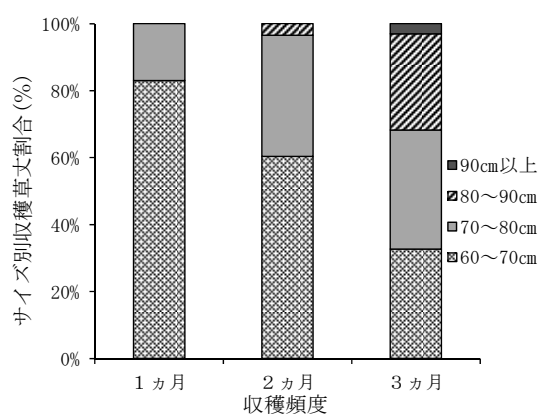


図2 収穫頻度とサイズ別収穫割合

表2 栽植間隔と収量および生育特性

植栽間隔	収量		草丈 (cm)	調整後枚数 (枚)	1本重 (g)	葉色 (SPAD値)
	1株あたり(本)	m ² あたり(本)				
20×20cm	9.3	217	67.0	7.2	23.8	42.4
30×30cm	15.8	197	66.4	7.1	25.1	37.7
40×40cm	22.4	150	66.9	7.2	27.8	44.3



図3 栽植間隔を変えたキキョウランの様子(右から 20×20 cm, 30×30 cm, 40×40 cm)

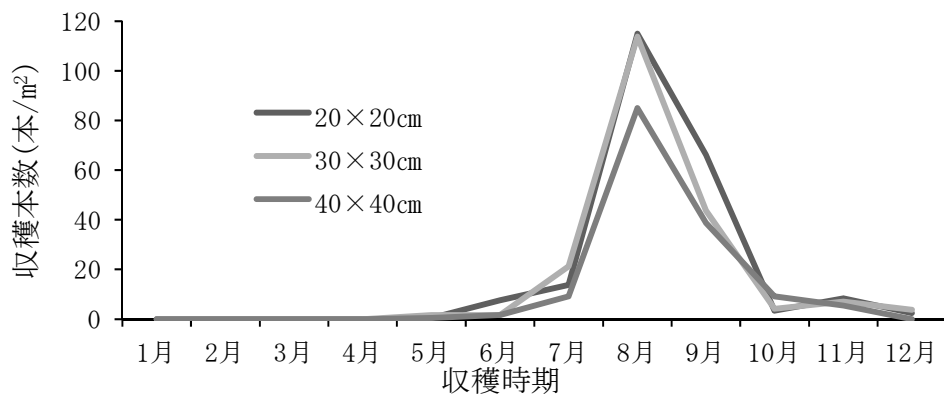


図4 異なった栽植間隔が収穫時期と収穫本数に与える影響